

新庄市議会 行政視察報告書

会派名 勁草21

【全体的事項】

富士吉田市

人口48,789人 面積121.74km²

1. 視察日程 令和 元年 8月18日(日)～19日(月)

2. 視察事項

- ①山梨県立富士山科学研究所ボランティア活動について
- ②山梨県富士吉田市立看護専門学校について

3. 視察参加議員

八鍬長一・叶内恵子・小関 淳

【具体的事項】

視察事項(1)

(視察事項) 県立富士山科学研究所のボランティアガイド活動について

■視察日時 令和 元年 8月18日(日)
 午後 3時 ～ 5時

■所 感

県立富士山科学研究所では、「森のガイドウォーク」というイベントを開催している。そのボランティアガイドの活動を視察した。4月末から10月末までの土日祭日、そして、春のゴールデンウィークや夏休み期間中は殆ど連日開催されている。彼らとともに富士山の自然を散策しながら、山の歴史や草木、地質、小動物などの話を聞くことで、富士山の知識が楽しく学べる仕組みとなっている。

その季節ごとの特色ある状況を、ガイドさんなりの口調で話し、無理なく情報を伝える話術に好感を覚えた。

新庄市にも、豊かな自然がある。当市でも、自然散策ボランティアを養成できないだろうか。

視察事項（２）

（視察事項） 富士吉田市立看護専門学校開設から現在の運営状況について

■視察日時 令和元年 8月19日（月）

午前 10時 ～ 午後12時

■所 感

今回視察した富士吉田市立看護専門学校は、新庄市が開設しようとしている養成学校と同様の3年制の専門学校である。人口は約49,000人で、地域医療の要となる市立病院があるというところが、新庄市とは異なる。山梨県地域保健医療計画に基づき、平成8年4月に開校している。定員は1学年50名で総定員は150名となる。しかし、県内看護師養成機関や首都圏の看護大学との獲得競争もあり、現在は115名となっているが、講師陣や学生たちの頑張りもあり、過去10年間の国家試験合格率は100%である。

学生の出身地は、市内26.5%、市周辺（富士北麓・東部）33.1%とほぼ60%となっている。しかし、学生の確保の現状は厳しく、学校職員、教師全員が、県内高校などの進路課に出向き、PRや募集活動を積極的に行っている。

外部講師陣は、年間約70名である。山梨県地域保健医療計画に基づいていることから、県内大学や医療機関は協力的で県内4大学、5病院、3施設（訪問看護ステーションなど）が依頼先となっている。報酬については、2時間1.1万円プラス旅費となっており、年間7～800万円ほどである。なぜこのように低額かといえ、県の計画と一致しており、富士吉田市立病院もあり、講師陣は「身内」だからこのような数字に抑えられている。新庄市の場合、山形県保健医療計画とは一致せず、市立病院もない現状がある中での講師陣の確保は、郡内医師会などの協力が無いことから、ほぼ山形大学医学部から蔵王協議会という斡旋機関を通して派遣されてくることになる。市側が提示した報酬や旅費は、あまりにも低額に試算し過ぎていることがわかる。

今後、外科や内科などの括りが再編されることから、実習先の状況に合わせたカリキュラムにして対応する必要があり、その対応が益々難しくなっている。また、母性看護学や、小児看護学実習に対応できるほど患者の確保が困難で、他の類似養成機関との実習の調整も課題となっている。

富士吉田市立看護専門学校卒業生は、そのような課題が山積している中で、市立病院へ220名、北麓・東部周辺の総合病院149名、その他の県内病院にも161名が就職している。また、54名が助産師・保健師の資格取得のため大学に進学しているが、すべての学生が国家資格取得後には、地元に戻ってきている。富士吉田市は、暮らしやすく、市民が誇りの持てるまちづくりを实践し、若者が戻り、暮らしたいまちにしている。

平成30年度看護専門学校特別会計は、歳入合計約2億1千9百万円。この中には、一般会計からの繰入金、約1億7千万円。また、県補助金2千3百万円が入っている。県補助金があるのは、山梨県地域保健医療計画に基づいているからである。市が進める看護専門学校は山形県地域保健医療計画の対象外であり、県補助金はないことから、一般会計からの繰入金の額は、提示されている金額より、相当数字が跳ね上がることが予想される。

市長が進める看護専門学校開設には多くの問題点があり、中止することが最善の策である。
看護師養成を進めるなら、給付型の奨学金制度の充実が現在考えられる最良の事業である。

小関 淳